

# カンボジアを通して見えたこと

善徳寺住職 友 国 義 信

## (仏教と社会)

一昨年二月のカンボジア訪問以来、カンボジア仏教会ウナーロム寺僧侶の渋井修さんの活動支援を通して、見えてきたことを述べてみたいと思います。

昨年十二月に一時帰国された渋井さんを招いて開いた講話をまとめたものです。

「カンボジアの人々と仏教には強い結びつきがありま  
す。冠婚葬祭や慶事には必ず僧侶が招かれ、人々は週に  
一度は寺院で説法を聞く習慣を持っています。

学校・病院・橋の建設などの公共事業も、僧侶が先頭  
に立って寄付を集め、働きかけないと進展しません。汚  
職や賄賂が蔓延した社会で、唯一お金を持たず人々の為

に働く僧侶を信頼して、村や町が成り立っているのです。

しかし、十五年前のポルポト政権下で破壊された寺も  
殆ど復興し、指導者が殺されて壊滅した僧団も二万数千  
人に回復しましたが、学校や本も少なく、教師も足りず、  
僧侶の育成が遅れています。又、僧侶の過半数は十五歳  
以下の少年達で占められています。

一昨年に、二〇年ぶりにウナーロム寺で開かれた、全  
国二十一教区の僧侶代表三〇〇名による総結集大会も、  
スローガンばかりが前面に出されて、仏教会の具体的な  
活動や指針は定まらず、模索状態が続いています。

国の現状は、五月の総選挙と九月の新憲法によって国  
が再出発しましたが、状況はほとんど変わっていません  
国連のPKOが入って良かったことは人権教育がなされ  
たことで、その反面、今までなかった物や金が大量に流

入し、貧富の差が開いてきました。

日本政府は無償援助で農薬を送りましたが、カンボジアに入ると市場で売られて、政治家や官僚の個人収入になってしまいます。まだ、国中に賄賂や横領が蔓延しています。

農民はその農薬を使うと二〜三割も収穫が増えるので市場で買いますが、農薬は益虫も殺すので、農薬は毎年使わざるを得なくなりません。また、カンボジアでは農業用水と生活用水が一緒なので、川や池で取れる豊富な魚を失い、井戸が必要となり、お金の掛かる農業になってゆくでしょう。しかし、田畑を担保にお金を借りると、不作のときには土地を取り上げられてしまい、貧富の差が益々開いてゆくでしょう。

水の管理さえできたら、一年に五回も米が取れるという豊かな農業国の人々が、農薬の無償援助で得ることよりも、失うことのほうが多いのですが、誰にもそんな知識はありませんし、考える人もいません。

私は、この国の僧侶が様々な知識を身につけて、人々と共に考えて解決してゆく以外に良い方法はないと思います。今までの僧侶は、社会の問題に対して、『そんなことは経典に書いてない』、『そんなことは世俗のこと』で、仏教には関係ない』と、お経の話だけしてきました。

だからポルポト時代に仏教は「敗北」したと思います。僧侶が人権、平等、自由等の意識を学び、社会的な悪や矛盾を突き詰めて考え、それを人々に伝えて行くことが必要です。カンボジアの今後は、僧侶がどう動くかで決まるとも言えます。

#### (カンボジアの仏教)

インド文化圏と中国文化圏の接点に位置するカンボジアは、紀元前にインドの王族によって統一されました。九世紀後半から十五世紀前半にかけて最盛期を迎えたクメール王国は、アンコール・ワット、アンコール・トム of 壮大な遺跡群を残しました。王族はバラモンの儀式を行い、民衆は中国(唐)から大乘仏教を取り入れ、ビルマから小乗(上座部)仏教を取り入れ、両仏教が並立する時代が続きましたが、大乘仏教は民衆の支持を失い、小乗仏教中心の国になりました。

現在は、「何も持たず、人々のために尽くす」と言う、大乘精神を持った小乗(上座部)仏教が民衆の支持を受けて続いています。

昨年の総選挙の時に、過去の恨みを捨てて国の再生にカンボジア国民皆で取り組むべきと、首都からポルポト軍支配地への平和行進を行った僧侶も出てきました。

### (仏教と国家)

カンボジアにシアヌーク氏が帰国され、民衆の支援する仏教会に続いて、シアヌーク氏を法王とした王立仏教会と王立寺院も復興しました。政府も仏教を国教として、閣僚も仏教の法要に参加し、学校教育に仏教が取り入れられることになりました。総選挙の各党の公約は、全て仏教の教えに基づいた政治を目指すものでした。

しかし、国を挙げて仏教国の理想を掲げても、現実はいつの時代も変わりません。シアヌーク政権の時代も、官僚の横領と賄賂の蔓延に人々は政府への信頼を失っていました。

国家は民衆の信頼する仏教会を利用するか、ポルポト政権のように弾圧するかしかりません。

### (仏教と教育)

シアヌーク政権時代に近代化政策で始まった宗教と教育の分離政策は、ポルポト政権、ヘンサムリン政権へと引き継がれてきました。新政府で仏教がやっと中学校の授業に入りましたが、それは倫理・道徳教育の目的で、人生の指針を教えるものではありません。

### (仏教の社会への役割)

人々の間での信頼を欠き、官僚の賄賂や横領の蔓延した社会では、人々は仏教に安らぎのみ求めて、現実の矛盾から逃避してしまいます。

国家に埋没せずに、社会のなかに信頼を打ち立てる場所として、仏教寺院と僧侶に役割が与えられていると思うのです。小乗・大乘を問わず、社会の矛盾と苦悩を受け止めることのできない仏教は民衆の支持を失い、やがて衰退してゆくでしょう。

カンボジアの問題を追求してゆくなかで、日本の仏教寺院と僧侶のあり方が少しながら見えてきたと思います。

### (仏教徒への支援活動)

ポルポト政権下で仏教書が焼かれたので、カンボジア語の仏教聖典一三〇冊を門信徒より寄贈していただきました。また、洪井さんのカンボジア日本語学校生徒の教育里親を募り、二八名の門信徒に会員になっていただきました。

今後は、カンボジア人執筆による本の印刷や、日本語学校生徒の留学受け入れの支援を続けてゆくつもりです。

(今後のカンボジア)



ボルボト軍はベトナムの傀儡政権を倒すと言う大義を失い、投降兵が続出した。しかし、新政府は民衆の信頼を得ず、クーデターの危険は去っていません。

カンボジアの人々が国の自立を目指す運動への支援が、今こそ必要な時だと思います。